平成30年度　　施策評価表（平成29年度の実績評価）

記入年月日
平成　30　年　6　月　1　日

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	企画課	主管課長名	秋山　健一
5-4	施策名	公共交通の充実	関係課	都市整備課、商工観光課、学校教育課		

1．施策の目的と成果把握

目的

施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
市民	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
			実績値	41,278				
			見込値					
			実績値					
			見込値					
			実績値					

施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
誰もが気軽に公共交通を利用して移動できている。	①市内の公共交通機関に満足している市民の割合	%	目標値	20.0	22.0	24.0	26.0	28.0
			実績値	20.2				
	②コミュニティバスの利用者数	人	目標値	18,000	20,700	23,400	26,100	29,200
			実績値	31,273				
	②コミュニティバスの利用者数（見直し後）	人	目標値	18,000	38,400	44,800	51,200	57,600
			実績値	31,273				
			目標値					
			実績値					
			目標値					
			実績値					

成果指標設定の考え方	①コミュニティバスの運行により、毎年1%程度の満足度上昇を予想している。今後、公共交通の充実を図り、平成33年度には市民の4人に1人以上が満足している状況を目標としている。 ②1便当たり2.5人の利用者数を目標値としたが、平成29年度後半より目標を上回る乗車状況のため見直しが必要である。そこで、桜川市地域公共交通再編実施計画に掲げた、平成33年度の1便当たり利用者数6.0人を目標値とする。（平日：28便×240日、土休日：23便×125日と想定）
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①市内の公共交通機関に満足している市民の割合は、市民アンケートより求める。②コミュニティバスの利用者数は、運行事業者からの利用実績報告より求める。

2．施策の成果水準とその背景・要因

1）現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）

実績比較	☑ 成果がすべて向上した	□ 向上した成果が多かった	□ 成果がほとんど変わらない（横ばい状態）
	□ 低下した成果が多かった	□ 成果がすべて低下した	

背景・要因	市民アンケートで把握している「市内の公共交通機関に満足している市民の割合」について、満足及びやや満足の割合が平成27年度16.4%、平成28年度17.4%、平成29年度20.2%と少しずつ向上している。これは、コミュニティバスの運行により、市民の移動ニーズに対する手段が増えたことによると考えられる。 コミュニティバスの利用者数は、平成28年10月～平成29年9月が真壁・筑波山口間、平成29年10月～が岩瀬・筑波山口間というように、年度ごとに期間や区間が異なるため単純比較できない。運行開始以降半年ごとの利用者数は、平成28年10月～平成29年3月が10,446人、平成29年4月～平成29年9月が8,772人、平成29年10月～平成30年3月が22,501人と平成29年10月以降増えている。これは、平成29年10月より運行ルートを岩瀬まで延伸したことで、高校生の通学利用が増えたことが大きな要因であると考えられる。また、土休日便で雨引観音バス停の利用が多く、観光での利用も増加の要因であると思われる。

2）成果目標の達成状況

実績比較	☑ 目標値のすべてを上回った	□ 目標値を上回ったものが多かった	□ 目標値どおりの成果であった
	□ 目標値を下回ったものが多かった	□ 目標値のすべてを下回った	

背景・要因	市民アンケートで把握している「市内の公共交通機関に満足している市民の割合」について、満足及びやや満足の割合が平成29年度20.2%であり、目標値の20.0%を若干ではあるが上回った。これは、コミュニティバスの運行により、市民の移動ニーズに対する手段が増えたことによると考えられる。 コミュニティバスの利用者数は、平成29年度31,273人であり、目標値の18,000人を大きく上回った。これは、平日の高校生による通学利用や土休日の観光利用が増えたことが要因であると考えられる。平成30年度からは桃山学園への通学に45名の児童が利用するようになり、新年度を迎えた高校生の通学利用も増えていることから、当面利用者数は増加傾向にあると思われる。

3．施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けて設定した成果指標について、実績は目標値を上回りかつ上昇傾向にある。 これには、以下の2つの事業が大きく貢献したと考える。 (1)コミュニティバス運行事業により、岩瀬庁舎・筑波山口間を結ぶバスを運行したことで、市民の移動ニーズに対する手段が増えた。 (2)桜川市地域公共交通会議開催事業により、平成29年度には、交通事業者や専門家、市民代表、行政職員等で構成する地域公共交通会議を6回開催し、より良い公共交通網整備に向けた協議を重ねた。	平成30年度においては、より良い公共交通網整備に向けて以下の取り組みを重点的に行う。 (1)通院や買物など市民の日常の足を確保するため、平成30年10月から桜川市バスの運行ルートをさくらがわ地域医療センターやスーパー等を通るルートに見直す。 (2)平成30年10月からデマンドタクシーの利用対象者を高齢者や障害のある方等に限定し、効率的に運行を継続する。 (3)日常生活が不便なエリアを中心に、新しい公共交通システムの導入を検討する。 (4)公共交通に対する市民の意識醸成を図る。